

## CLEAS利用者 1万人を突破

12月18日、中央棟1階の自律学習支援スペース「CLEAS(クリアス)」の利用者数が、2019年3月28日の開室以来、延べ1万人を超えた。1万人目の利用者となった学生には獨協グッズが贈呈された。

教育研究支援センター所長の田中善英フランス語学科教授は「在学生の皆さんには、CLEASをはじめとする学内各施設を積極的に活用して欲しい。これからも、在学生の自律学習を支援するため努めていきたい」と語った。

CLEASは、学生の自学自習環境として、動画編集スペース、グループ学習スペース、モノクロ・カラープリンタ(一部有料)等を備えるほか、学生向けにパソコン各種操作の無料講習会も開催している。



## 英語学科が講演会を開催 哲学者SO-RI-氏が講師

1月16日、西棟W-201教室で英語学科主催講演会「言葉の通訳不可能性から考える、ポスト・トゥルース時代のコミュニケーション」が行われた。この講演会は、柿田秀樹英語学科教授の授業「コミュニケーション論特殊講義b」の中で行われたもので、講師は哲学者のSO-RI-氏が務めた。

SO-RI-氏は「ポスト・トゥルースとは何か」「感覚的なものを言葉で表現することの難しさ」「リアリズム追求の重要性」などを、自身の体験やテレビドラマなどの例を挙げつつ、軽快な口調で解説。講演の後半には、英語を学んだことで日本語の理解を深め、物事を深く知ることにつながった自身の経験や、英語学習の重要性について語った。

参加者は、時折投げかけられるSO-RI-氏からの質問に回答するなど、対話を通じて理解を深めている様子だった。



## 木村佐千子ドイツ語学科教授が 第32回「辻荘一・三浦アンナ記念学術奨励金」を受賞

木村佐千子ドイツ語学科教授が第32回「辻荘一・三浦アンナ記念学術奨励金」を受賞した。この奨励金は、故・辻荘一立教大学名誉教授および故・三浦アンナ立教大学元教授の功績を記念し、キリスト教音楽またはキリスト教芸術領域の研究者を奨励するため1988年に設置されたもの。音楽史および美術史の研究者に対し1年ごとに交互に授与される。今回は、木村教授の「J.S.バッハの教会声楽作品研究」が選ばれた。1月25日には、立教学院諸聖徒礼拝堂(東京都豊島区)で授与式が行われた。木村教授は奨励金を贈呈され、受賞スピーチとオルガン演奏を行った。

本学では、2010年度の第23回にも、青山愛香ドイツ語学科教授が「デューラーの遍歴時代—初期素描の研究」で受賞している。



## 高安ゼミ「JICA地球ひろば」で フィリピンの歯磨き事情に関する研究活動を報告

経済学科・高安健一ゼミの学生が12月20日、JICA地球ひろば(東京都新宿区)で「目指せ!健康のための正しい歯磨き!—学生5人がフィリピン・マニラで歯磨き教育—」と題した研究発表を行った。

今回発表したのは、3年生5人のDental Education Philippineチーム。フィリピンでは1日3回の歯磨きが定着しつつあるものの、その方法が正しくないことが生活習慣病を患う要因の一つになっていると説明した。問題解決のために、7~8歳の子供への対策として、知識の伝達方法の工夫や正しい歯磨きの仕方である「ハロアル磨き」の指導などを提案した。報告した小林音楽さん(済3年)は「私たちの研究をきっかけに、一人でも多くの方が途上国支援に興味を持ってくださることを心より願っています」と語った。



## 獨協大学父母の会 「学生チャレンジ支援プログラム」審査結果

獨協大学父母の会は、本学学部生の活動に対して、助成や顕彰を行う「学生チャレンジ支援プログラム」の審査を行いました。2019年度第4期(11月1日~12月20日)の採択者は以下の通りです。

### 【チャレンジ活動助成】

■Hult Prize at Dokkyo運営委員会(代表 大隅菜摘子さん・仏3年)  
活動名「Hult Prize @獨協大学」に対し、320,000円の助成を条件付きで認めた。

### 【チャレンジ活動顕彰】

■STEP(代表 井上慧太さん・済3年)  
「Hult Prize at Dokkyo University」優勝に対し、85,000円の顕彰金を贈呈。

■経済学科 高安健一ゼミ すごそうか北陸チーム  
「大学生観光まちづくりコンテスト2019 北陸ステージ」ポスターセッション優秀賞に対し、25,000円の顕彰金を贈呈。

## 法学部「国際機関で働きたい人のための キャリア・ガイダンス」開催

12月16日、法学部は学生に多様な人生設計を考えてもらうことを目的とし「国際機関で働きたい人のためのキャリア・ガイダンス」を開催した。

当日は、外務省国際機関人事センターの中野美智子課長補佐が、自身の外交官としての経験を交えながら、国際機関職員の勤務内容や勤務条件などについて説明。必要な資質として高い専門性と英語力を挙げ、「修士号以上の学位と専門分野での2年以上の職歴が必要」と述べた。

コーディネーターの鈴木淳一国際関係法学科教授は「国際機関は、採用方法などを比較しても一般的な民間企業と差異が少なくなってきたと感じた。今後は、国際機関を目指す卒業生が増える可能性がある」とコメントした。

